

# 柚木沙弥郎

YUNOKI  
SANMIRO



と仲間たち

AND HIS FELLOW ARTISTS

2023.9.6(水) - 9.25(月) 日本橋高島屋S.C.本館8階ホール

[主催] NHK財団、日本民藝館 [協力] 日本民藝協会 [ご入場時間] 午前10時30分～午後7時(午後7時30分閉場) \*最終日 9月25日(月)は午後5時30分まで(午後6時閉場)

[入場料(税込)] 一般1,200円(1,000円)、大学・高校生1,000円(800円)、中学生以下無料

※( )内は前売り料金。前売券はイープラス、ローソンチケット(Lコード 36593)、セブンチケット(セブンコード 100-413)にて5月10日(水)から9月5日(火)までお求めいただけます。※最新の情報は日本橋高島屋S.C.のホームページをご覧ください。当催しについては「障がい者手帳・デジタル障がい者手帳」をご提示いただいたご本人様、ならびに、ご同伴者1名様まで入場無料とさせていただきます。※安全のため、小学生以下のお子さまは必ず保護者の方のご同伴でご入場ください。※都合により、催し内容・会期等が変更または中止になる場合がございます。

 Takashimaya S.C. NIHOMBASHI

《型染爪文帯地》柚木沙弥郎 1991年 501.0×36.5cm (部分) 日本民藝館蔵 展覧会題字: 柚木沙弥郎(2023年)

出会いがつなぐ、つくる愉しみ、生きるよろこび。

# 柚木沙弥郎 と仲間たち

100歳を迎えて今なお、現役染色家として老若男女の心をとらえる作品を生み出している柚木沙弥郎(ゆのきさみろう 1922~)。柚木の歩みを語る上で欠かせないものに、同時代を共に歩んできた仲間たちの存在があります。「自分は幸運にも長く生きてだけで、他にも一緒にやってきた評価されるべき仲間がいるのです」と柚木は語ります。

本展では、柚木の染色作品を中心に、ともに切磋琢磨してきた陶芸家の武内晴二郎や船木研児、柚木に熱意を込めて民藝の本義を伝えた工芸家・鈴木繁男の作品をあわせ紹介します。また、柚木の師である染色家・芹沢銈介を中心に結成された染色家の団体「萌木会」に集った染色家たちも取り上げます。

彼らは、日本民藝館の創設者・柳宗悦はじめ濱田庄司や河井寛次郎、バーナード・リーチ、芹沢ら初期の民藝運動を推進した作家たちに影響を受け、民藝運動に参画し、制作に励んだ作家たちです。「いつでも気持ちの中に今日の我々の生活をもっと健全で快適なものにしたい」という思いにあふれた柚木と仲間たちの作品は、見るものに日々生きる喜びを与えてくれるでしょう。

## 展示構成

- 第1章 出会いとはじまり
  - 民藝との出会い ● ひびきあう仲間たち
- 第2章 生活を彩る色・かたち・もよう
- 第3章 ひろめる ひろげるー萌木会の活動

## プロフィール

### 柚木沙弥郎 ゆのき さみろう



1922年東京生まれ。染色家。柳宗悦の民藝の思想と芹沢銈介の型染カレンダーに出会い感銘を受け、染色家の道に進む。型染による染布、染絵などの作品を制作し、国内外で数多くの個展を開催。絵本の仕事や立体作品、グラフィックの仕事にも取り組む。女子美術大学名誉教授。第1回宮沢賢治賞、2021毎日デザイン賞受賞。

[特設サイト] [柚木沙弥郎と仲間たち](#)

 **Takashimaya S.C.** NIHOMBASHI

〒103-8265 東京都中央区日本橋 2-4-1 TEL 03-3211-4111



《喜びの鳥》柚木沙弥郎  
1983年 176.0×76.0cm 日本民藝館蔵



《型染幾何文布》柚木沙弥郎  
1954年 358.0×92.0cm (部分) 日本民藝館蔵



《注染幾何文布》柚木沙弥郎  
1952年 613.0×85.0cm (部分) 日本民藝館蔵



《黄釉流描角鉢》武内晴二郎  
6.5×34.0×28.5cm 1953年 日本民藝館蔵



《黄釉鳥文鉢》船木研児  
11.5×40.0cm 1952年頃 日本民藝館蔵